



ペテロの手紙第一の構造 3章8節～4章11節

1st PT 3:8-4:11

理由 3:17-22 霊: ノアの救済 4:7-11	3:8-16 良. 自分 (ノア) 救. 聖徒. 肉 4:1-6
-------------------------------------	---

1st PT. 1:3-5:11 ← 1:2に寄与している ←
← 5:12を寄与?

3 1 4 2	2:11-3:7	1:3-2:10
3 1 2 4	3 1+2 4 2	3:8-4:11
3 2 1 4	4:12-5:11	3:8-4:11

2013.6.18

- 3:8-12 相手に 善を行はせ.
- 3:13-16 神を敬ぶ. 弁明 (律法の中)
- 3:17-19 十字架. vs 悪
- 3:20-22 復活. 救済. 生かす.
- 4:1-2 十字架. vs 肉の欲望. (汚)
- 4:3-6 復活. さげおこす. 死なす.
- 4:7-9 互いに. 愛し合え.
- 4:10-11 神を敬ぶ. 諸君を (御霊を)

1:2. 選ばれた人々

- ① 父: 父と神の御前に従い
- ② 聖: 御霊の聖めによる
- ③ 従: イエスキリスに従うように
- ④ 血: 主イエスの血の注ぎかけを蒙るために.

aabb	abab	
～のび選ばれた	～のび善悪	父
～のび選ばれた	～のびいの	霊
～のび選ばれた	～のび善悪	子
～のび選ばれた	～のびいの	子

第1ペテロの大きく4つに分けた時の3番目の段落。3章8節から4章11節アーメンまで、「最後に申します」から「アーメン」までの3番目の段落を見ました。第1ペテロの導入の2節にある「御霊の聖めによって」ということを表している段落であるということです。

「御霊の聖めによって」という段落だというのが他から見ると少しわかりにくかったのですが、ここを4つに分けられます。8節から16節、17節から22節、4章1節から6節、7節から11節。

1st PT 3:8-4:11

理由 3:17-22 霊: ノアの救済 4:7-11	3:8-16 良. 自分 (ノア) 救. 聖徒. 肉 4:1-6
-------------------------------------	---

2013.6.18

- 3:8-12 相手に 善を行はせ.
- 3:13-16 神を敬ぶ. 弁明 (律法の中)
- 3:17-19 十字架. vs 悪
- 3:20-22 復活. 救済. 生かす.
- 4:1-2 十字架. vs 肉の欲望. (汚)
- 4:3-6 復活. さげおこす. 死なす.
- 4:7-9 互いに. 愛し合え.
- 4:10-11 神を敬ぶ. 諸君を (御霊を)

この4つに分けると、ノアの話が2番目と3番目にあります。3番目の段落も地上の話をしています。ノアの洪水が来た時の状態を表しているようなことばも入っていますので、ノアのことを思い出すような2番目と3番目の段落を見ると、十字架の働きによって救われましたというのが、17節から22節。4章1節から6節は、十字架によって滅された肉の欲を捨てないと十字架によって滅されますという、その滅されるほうです。ですか

ら裁かれるなということになると思います。十字架によって救われて復活していのちに至るということ、十字架によって滅されないで霊が活かされるようにということが4章1節から6節のところの平行です。「十字架」対「悪」、「十字架」対「汚れ」というようにもまとめられると思います。

1ペテロ 3:8-4:11

理由 3:17-22 霊: 1ア. 救. 刑死	やるべきこと 3:8-16 良. 自分
良. 相手 4:7-11	(1ア) 親. 異物. 肉 4:1-6

2013.6.18

- 3:8-12 相手に. 善を行はえ.
- 3:13-16 神をあはゆる. 弁明 (御名を守る)
- 3:17-19 十字架. vs 悪
- 3:20-22 復活. 華やか. 聖なる.
- 4:1-2 十字架. vs 肉. 欲望. (汚)
- 4:3-6 復活. とばかひする. 死なむ.
- 4:7-9 互いに. 愛し合え.
- 4:10-11 神をあはゆる. 語る. 華化 (御霊ごめゆる)

8節から16節のほうは、やるべきことという感じです。兄弟愛をもって相手に対して善を行う。そして、神を崇めるようにする。そういう意味では、相手に対してとは言っていますけれども、自分を正しく保つというのが8節から16節のほうです。4章7節から11節のほうはお互いということの方が強調されています。

ですから、8節から16節の最初のほうの段落は、御名を守る、弁明する。口を制して弁明して、神が崇められるように御名が崇められるように御名を守りなさい。神様の名を守りなさいというのが最初。

4番目のほうは、お互いということですから、守りよりは攻めです。御霊で攻めるかんじです。御霊の賜物を正しく用いて、攻めて神様が崇められるようにという段落になっています。

1ペテロ 3:8-4:11

理由	やるべきこと
3:17-22 霊: 1ア. 救. 刑死	3:8-16 良. 自分
良. 相手 4:7-11	(1ア) 親. 異物. 肉 4:1-6

2013.6.18

- 3:8-12 相手に. 善を行はえ.
- 3:13-16 神をあはゆる. 弁明 (御名を守る)
- 3:17-19 十字架. vs 悪
- 3:20-22 復活. 華やか. 聖なる.
- 4:1-2 十字架. vs 肉. 欲望. (汚)
- 4:3-6 復活. とばかひする. 死なむ.
- 4:7-9 互いに. 愛し合え.
- 4:10-11 神をあはゆる. 語る. 華化 (御霊ごめゆる)

この4つを見ると、十字架の戦いと復活の勝利というのが、2番目、3番目の段落。最初のほうは神を崇めて何をするか、最後も神を崇めて何をするかというやるべきこと。やるべきことと、行うべき理由というので構成されている全体なのですが、それは、御霊の聖めだということです。御霊が霊においては活かされるように、御霊が働いてくださったバプテスマの話。そして、最後の裁きの話、4章の最初。その理由に基づいて御霊の聖めが与えられたのであれば、このようにしなさいというのが、自分を正しく保つことと、兄弟に対して愛を表すこと。この二つで言われていますけれど、それは

すなわち御霊の実である。このやるべきことと言っているのは、御霊の実を結びなさいというふうに言われているということです、「御霊の聖めによって」という聖めの十字架と復活のことで、聖められた者が、実を結ぶ実のことを説明してくれている、励ましてくれている3つ目の段落だということが、この構造で言えると思われま